

### 第3回 介護・医療連携推進会議報告

平成24年10月22日 16時～  
ケア・オフィス 優 (介護看護課)

#### <出席者>

札幌・すがた医院 院長	菅田 忠夫 様
小樽市医療保険部 主幹	浅野 良孝 様
小樽市介護保険課	須摩 敦子 様
中部地域包括支援センター	神代 亜美 様
中部地域包括支援センター	泉谷 真弓 様
ケア・オフィス 優 管理者	二丹田 早稲子
ケア・オフィス 優 介護福祉士	屋代 利恵子
ケア・オフィス 優 事務職員	齋藤 智世

#### 1. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 集計報告

##### ① 7月、8月、9月の集計 (訪問集計表参照)

入院・入所等により現在 (H24.10.22 現在) の利用者は3名となっています。

##### ② 疾患の別

- ・ 末期癌
- ・ 脳梗塞後遺症
- ・ 腰部脊柱管狭窄症
- ・ 褥瘡 (合併症)
- ・ 超高齢

##### ③ エリア

- ・ 塩谷～朝里

##### ④ 中止理由

- ・ 軽快・入院・入所・サービス変更など

「サービス変更」は、前回の会議の中でご意見をいただいた1日のコール回数が頻回であった方について、担当ケアマネージャーや関係機関担当者との会議を行い、他のサービスへ移行することとなりました。

## 2. 定期巡回サービス内容報告

- ① 排泄介助
- ② 配膳、下膳
- ③ 内服介助
- ④ 起床、就寝介助
- ⑤ 体位交換
- ⑥ 調理
- ⑦ 食事介助
- ⑧ 清拭、入浴
- ⑨ 買い物
- ⑩ 通院介助（自費）

サービス内容に大きく変化はないが、前回の会議を踏まえて、サービス提供をできることとできないことを、契約段階でしっかりと説明し了承をいただいています。

## 3. 随時対応サービス内容報告

- ① 薬を飲んだことを忘れての問い合わせ→服用介助したことを説明する事で納得
- ② ご家族より不穏の状況連絡にて頓服の調整相談→医師からの指示にて服薬指示
- ③ 夕薬を飲み忘れたと相談→就寝薬と服用可能と返答
- ④ 定期訪問に合わせ、ご家族が出かけたいので滞在時間延長の依頼→対応
- ⑤ キャンセル連絡 →家族が来ているので今日のサービスは不要

## 4. 随時訪問サービス内容報告

- ① 排便介助
- ② 失禁対応
- ③

## 5. 訪問看護緊急対応内容報告

- ① 状態悪化
- ② バルンカテーテルトラブル
- ③ 痰が絡んで苦しい
- ④ 排便困難による浣腸、摘便
- ⑤ 発熱
- ⑥ 尿閉
- ⑦ 血便
- ⑧ 医師による処置指示変更
- ⑨ 医師による処方変更

## 6. 困難事例の解決報告

### ① サービス提供時間

- ・不在～2時間の範囲→ケアマネとサービス内容再度検討

1日のサービス提供内容が多い方については、複数回の訪問の中で小分けにしながらサービス提供しています。

1回のサービス時間が長い方については、他の代替サービス検討を担当ケアマネージャー依頼しています。例としては、家族風呂へお連れして入浴介助をしている方のデイサービスでの入浴を検討していただいています。

- ・毎回、1時間かかる方→療養型入院

### ② サービス内容

- ・ミキサー食作成から食事介助、排泄介助までを提供→療養型入院
- ・二人介助が必要な方への訪問→療養型入院
- ・家族風呂での入浴介助→デイサービス検討中

### ③ コール回数

- ・毎日必ずコールする方→排便介助が原因のため、ご家族指導し解消
- ・1分ごとにコールする方→療養型入院

## 7. 現状問題

### ① 職員数の不足（継続課題）

グループホームでもなかなか人材が集まらず、求人応募があったら採用せざるを得ない状況。（浅野主幹より）

在宅サービスということが人気ないことも考えられ、また施設よりも1人にかかる責任が重く思われがちということも考えられる。

以前には、車の運転や仕事自体が不安であるという声も耳にしたことがある。

当社では、ヘルパー実習生の受け入れをしているが、実際にヘルパー職に就くことを考えていないという話も聞く。

人材が集まらなると体制確保も難しく、現状では人材集めが一番の課題である。

### ② 利用者の減少→回覧板による宣伝広告を検討中

原案を見ていただき検討。

従来の訪問介護や訪問看護との違いを一般の方に分かりやすくし、知ってもらうことが重要である。

再構築し出来上がり次第、本日出席者の方の意見をお聞かせいただきたい。

8. 全道の状況（市より情報）

- ・ 12カ所がサービスを展開している（札幌9、帯広1、夕張1、小樽1）

一体型→4カ所、連携型→8カ所

利用者数：180名（一事業所平均15名）

\* 一事業所で60名の利用者の所もあり、高齢者住宅を併設している事業所と考えられる。

9. 外部評価について（道へ確認）

開設初年度は実施しなくても良いとのこと

（平成25年度から検討する予定）

10. 意見交換

11. 役員の方からの助言など

地域には定期巡回サービスが必要と思われる方がいると予想されるが、一般の方にはまだ馴染みがなく、またケアマネージャーもサービス詳細についてのイメージが定着していないため、利用者の獲得につながらないのではないか。

（中部包括支援センター神代さんより）

サービス開始当初、サービスについて説明するため各事業所を回ったが、再度説明し、まずはケアマネージャーに理解してもらうことが必要と思われる。